

令和2年度(2020年度) 松本美須々ヶ丘高等学校 学校自己評価表

78 長野県松本美須々ヶ丘高等学校

I 教育目標とグランドデザイン 評価は、A(十分)、B(おおむね十分)、C(やや不十分)、D(不十分)の4段階

学校教育目標	グランドデザイン	総合評価	次年度への課題
1 基礎的知識・技能の習得及び健康・体力の増進 2 自主・自律の精神及び豊かな情操・知性の育成 3 地域との連携による幅広い人間性の涵養 4 民主的で平和な国家・社会を形成する主権者の育成	地域の教育力を生かした多様な学びを実現 「人とつながる、地域とつながる、未来とつながる」		
松本美須々ヶ丘高等学校 「3つの方針」			
目指す学校像 地域の教育力を活用した多様な学びを展開し、地域とともに愛され続け、発展していく学校			
DP:生徒育成方針 グローバル化が進展する社会の中で自分の可能性を追求しながら、地域社会を支え、未来を創造できる生徒を育てます。 CP:教育課程編成・実施方針 地域の教育力を活用し、多様な学びを取り入れた教育課程を編成・実施します。 AP:生徒募集方針 基本的な生活習慣が身につけており、多様な学びや体験活動に意欲を持って取り組む生徒を待っています。			
令和2年度(2020年度) 重点目標 (平成30年度～令和4年度 中期目標)			
(1) 「大学入学共通テスト」に対応する丁寧な教科指導と進路指導体制の充実により、それぞれの生徒の進路実現を保証する。 (2) 学習活動・課外活動・部活動など多くの場面で、課題を発見し、その解決のために生徒自らが目標を設定し、主体的・意欲的に学び、取り組む姿勢を育成する。 (3) 広く地域や国際社会に目を向けさせ、校外でも積極的に活動することで、社会性やコミュニケーション能力を高めさせるとともに、地域の期待に応える「地域の中学校」づくりを進める。 (4) 必要な学習環境の整備を行い、積極的に情報を発信することで、家庭との連携を図り、複雑化する社会・家庭環境に柔軟に対応できる安心安全な(体罰やいじめなどのない)学校づくりを進める。 (5) 「言語活動」を充実させ、的確な言葉を用いて、論理的かつ自由に思考し表現しながら、異なる他者や多様な立場を理解できる多角的な視野と品格を育む。 (6) 新型コロナウイルス感染症対策による臨時休業を踏まえ、生徒の学習面、生活面、精神面の状況を把握し、家庭での学習を支援できるよう、ICT機器を活用した学習支援方法の確立に努め、必要に応じて助言を行うなど、臨時休業等が生徒の不利益とならないよう、そのケアに努める。			

II 今年度重点目標(部署別) 評価は、A(十分)、B(おおむね十分)、C(やや不十分)、D(不十分)の4段階

部	中期目標	評価項目(重点目標)	評価の観点(具体的な取り組み)	項目自己評価	成果と課題(最終評価)	向上策・改善策
教務	(1) (2) (3) (4) (6)	①授業や諸行事、会議等が円滑に行われるように努めると共に、それに伴う諸問題の調整を行う。	・諸行事の計画は適切であったか。 ・公開授業、体験入学、webページの更新、中学校訪問、連絡メール配信などが効果的に行われたか。	①		
		②関係各署と密に連絡を取り合う。	・校内研修の充実を図れたか。 ・会議の効率化が図れたか。	②		
		③今年度以降の様々な改定による諸課題に迅速に対応するよう努める。	・日課変更3年目にあたり、十分な検証が行えたか。	③		
		④安心して通える学校づくりに努める。	・防災計画を迅速に立案し、それに基づく安全管理が適切に行われたか。	④		
		⑤新型コロナウイルス感染症対策に伴う休業への対応、休業明けの体制づくりを各署と連携して進めていく。	・生徒に不利益とならないよう、関係各署と連携し、行事予定の再構築等、計画・実行できたか。	⑤		
進路指導	(1) (2) (1) (6) (1) (4) (6)	①生徒が自分の能力や適性を的確に把握して、主体的に自らの生き方を考えて進路を選択できるように、さまざまな機会をとらえて計画的、組織的な指導をする。	・個人面談、LHR、学年集会、進路の日、などの企画運営を通して、生徒が自分について考え、進路意識を高め、進路の選択をする機会や資料を与えることができたか。 ・各学年の進路指導計画を遂行することができたか。	①		
		②予習→授業→復習という学習習慣の定着を図る。	・平日の家庭学習時間1時間30分を達成できたか。 ・Classiを利用した動画配信を生徒に活用させることができたか。	②		
		③生徒の進路選択にかかわる情報や学習成績と模擬試験の結果などを職員間で共有し、教科や学年に助言と協力を求める。	・模擬試験の結果を職員間で共有し、教科や学年からの助言を生徒にフィードバックすることができたか。	③		
		④「大学入試共通テスト」や、臨時休業による進路に関するスケジュールの変更などの情報と資料を収集し、生徒や保護者及び職員に正確に発信するとともに、生徒が不利にならないように適切な対応をする。	・各学年の学年通信で情報を発信したか。 ・必要に応じて職員会で職員に連絡したりメールを使った発信をしたりしたか。	④		
		⑤予習→授業→復習という学習習慣の定着を図る。	・平日の家庭学習時間1時間30分を達成できたか。 ・Classiを利用した動画配信を生徒に活用させることができたか。	⑤		
生活指導	(3) (4)	①生徒に挨拶、交通マナーの徹底など基本的な生活習慣を確立させる。	①社会や学校のルールを確認させ、遵守させる指導ができたか。	①		
		②生徒とのコミュニケーションや家庭との連携を密にして信頼関係を築く。	②HR指導、頭髪指導、立ち番指導、巡視指導、挨拶運動などを実施できたか。また、匿名のアンケートを用いて意見に耳を傾け、的確に対応できたか。	②		
		③職員がアンテナを高めて、生徒の小さな変化にも気づき、初期対応を適切に行い、いじめや体罰のない学校づくりを進める。	③各学年会をはじめ、関係機関と緊密に情報共有し指導できたか。	③		

部	中期目標	評価項目(重点目標)	評価の観点(具体的な取り組み)	項目自己評価	成果と課題(最終評価)	向上策・改善策
生徒会	(2) (3) (4) (5) (6)	①他者と協力して諸問題を解決しようとする主体的、実践的な姿勢を育む。 ②集団や社会の一員としての自覚を深め、保護者・地域との連携を図る。 ③健全で自由に活発な生徒会活動や部活動を推進する。 ④相互の尊重し、友情を深めると共に、規律を遵守し共同生活の発展に尽くす姿勢を涵養する。 ⑤新型コロナウイルス感染症対策により生徒会や部活動活動が制限され、生徒会行事の延期、中止等の見直しを検討せざるを得ない状況において、少しでも生徒が前向きに取り組めるよう支援していく。	・主体的、実践的に取り組ませることができたか。 ・保護者・地域との積極的な連携が図れたか。 ・健全で自由に活発な生徒会活動や部活動を実現できたか。 ・多角的視野を持ち、他者を尊重することのできる人材を育成できたか。 ・新しい生徒会活動の構築に向け、適切な支援ができたか。	① ② ③ ④ ⑤		
情報処理	(4) (6)	①使いやすさとセキュリティの高さという相反する目的を達成するため常時ネットワークの運用管理に心を配る。 ②今年度よりG Suite for Educationの導入や県内の内部事務システム等の関連のグループウェアが更新の予定であるので、その対応をする。先生方への周知および、連携をとり、さらなる校内のICT化に向けて研究を行う。	・グループウェア更新の為に新しい知識を理解習得し、応用できたか。 ・年1回程度を目標に職員向けの校内セキュリティ講習や、新システム導入講習等を実施し、セキュリティ意識・技術の向上や、新システム稼働に向けて技能の向上をはかる。	① ②		
清美	(2) (4)	①清美委員会と協力し、ゴミの分別・可燃ゴミの削減のために生徒自らが主体的・意欲的に取り組む姿勢を育成する。 ②職員・生徒の清掃に対する意識を高め、清潔で気持ちのよい学習環境を整えられるよう、適切な清掃活動を計画する。	・資源ゴミの分別徹底により、可燃ゴミの削減ができたか。 ・ゴミ回収、大掃除、ワックスがけ、カーテン交換などの清掃計画は適切であったか。 ・校舎内外の清掃はきちんと行われていたか。	① ②		
図書視聴覚	(2) (4) (6)	①生徒の主体的、意欲的な学びに役立つ図書館の蔵書や視聴覚教材・機器等を部で検討し、備える。 ②ICT機器導入により授業におけるICT機器活用方法の研究を進める。 ③ICT機器を活用した学習支援が円滑に進むよう関係部署と連携する。	・生徒の主体的、意欲的な学びを支援する教材・機器などを備えることができたか。 ・授業におけるICT機器活用に関する研修に参加する等、研究を進めることができたか。 ・ICT機器を活用した学習支援が円滑に進むよう関係部署と連携できたか。	① ② ③		
保健教育相談	(2) (4) (6)	①生徒が様々な活動に、主体的・意欲的に取り組むために、生徒の心身の健康を維持できるよう、支援体制を整える。 ②安心安全な学校づくりのために、早期に生徒の状況を把握し、家庭や外部機関とも連携していく。 ③新型コロナウイルス感染症対策として、衛生面の管理をしっかり行い、校内での感染予防に努める。	・生徒の心身の健康を維持するために、生徒の状況を把握し、情報を共有し、チーム支援ができたか。 ・問題を抱えている生徒の悩みに寄り添い、家庭や外部機関と連携し、支援につなげることができたか。 ・新型コロナウイルス感染症対策として、衛生面の管理をしっかり行うことができたか。	① ② ③		
渉外	(3) (4) (6)	①地区PTA懇談会に関すること。 ・参加者を増やす工夫及び働きかけをする。 ・保護者の意見を吸い上げ職員に伝達する。 ・地区の合意を得ながら合併を進める。 ②学校と保護者・同窓会と連携を図り、PTA活動の企画・運営を行なう。 ③PTA総会・評議員会・地区PTAとも、新型コロナウイルス感染防止のため参集が難しい場合は、速やかに代替の措置を立案し、会員に周知する。	・地区PTAにおいて、参加率は向上したか。 ・地区の合併の検討は充分だったか。 ・保護者の意見や要望について、関係部署での検討を依頼し、学校運営に役立てることができたか。 ・新型コロナウイルス感染防止のため参集できなかった会合の代替措置は適切であったか。	① ② ③		
総合	(1) (2) (3) (5)	①各教科・科目、特別活動等で学習した知識や技能を総合的に活用し深化させる。 ②学校生活や地域社会の中から、自ら課題を見つけ解決する能力を育成する。 ③主体的かつ探究的に学ぼうとする意欲や態度を育成する。 ④グループワーク等の協働を通じてコミュニケーション能力を育むとともに、プレゼンテーション等を通じて表現力を身につけさせる。	・様々な学習活動を通して生徒が社会とのつながりや生き方について考える機会になったか。 ・外部との連携による様々な学習活動を取り入れることができたか。 ・生徒が主体となった探究的な学びを充実させることができたか。 ・発表会等の表現活動を発揮する機会を設けることができたか。	① ② ③ ④		

学年	中期目標	評価項目(重点目標)	評価の観点	項目 自己評価	成果と課題(最終評価)	向上策・改善策
1 学年	(1) (4) (5) (6)	①基本的な生活習慣を確立し、家庭生活も含め継続的な学習を身につけるよう指導する。	・手帳等を利用し、計画性を持った生活スタイルを立て、充実した学習活動ができるよう指導できたか。	①		
		②入学直後に長い休校生活が続いたが、生徒が安心して学校生活を送り、より良い人間関係を築けるよう丁寧に対応する。	・生徒の状態を把握するための個人及び保護者との面談が実施できたか。	②		
		③探究型学習の内容を計画性を持って進め、2年時の研修旅行へと繋げていく。	・「総合的な探究の時間」を有効に活用できたか。	③		
		④臨時休校期間で受けた学習面、生活面の影響を改善するために、個々の生徒に応じ支援・補充を行う。	・休校期間中の連絡メールや学年・クラス通信、授業動画配信などを計画性を持って実施できたか。	④		
2 学年	(1) (4) (5) (6)	①生徒が安心して学校生活を送り、より良い人間関係を築き安定した状態で学習に打ち込めるようにする。	・各生徒の身体面・精神面の状況把握ができるような個人面談が実施できたか。	①		
		②入試改革に向け各自が積極的かつ詳細にわたる進路選択を行えるようにする。	・生徒の進路希望について相談のり、適切な情報を提供できたか。	②		
		③探究型学習の内容を計画性を持って進め、充実した研修旅行へと繋げていく。	・「総合的な探究の時間」を有効に活用できたか。	③		
		④臨時休校期間で受けた学習面、生活面の影響を改善するために、個々の生徒に応じ支援・補充を行う。	・休校期間中の連絡メールや学年通信、授業の動画配信など、計画的に実施できたか。	④		
3 学年	(1) (2) (4) (5) (6)	①大学入試共通テストがコロナウイルスでどのように影響を受けるのかを敏感に察知し対応出来るようにする。	・大学入試をはじめ進路情報について共有出来たか。	①		
		②それぞれの生徒の進路希望を把握し、生徒・保護者に進路情報を提供しながら、学年全体で進路実現に向けて支援していく。	・生徒個々の進路希望について保護者とも相談しながら学年全体で対応出来たか。	②		
		③夏期休業が休校の影響をどのくらい受けるのか分からないが、生徒の学習環境についてはエアコンも設置済みなので有効に活用して進学補習等も実施できるようにする。	・生徒の学習環境について不利益がないように対応出来たか。	③		
		④昨年度の進路研修旅行の中止や、新型コロナウイルスの影響によって最終学年であるがクラブ活動・生徒会活動も制限されたことに対する、生徒の心理面でのケアに留意する。	・学年を中心に学校全体で生徒の支援が出来たか。	④		
教科	中期目標	評価項目(重点目標)	評価の観点	項目 自己評価	成果と課題(最終評価)	向上策・改善策
国語	(1) (2) (4) (5)	①論理的思考力を高めるとともに、自らの考えを的確に表現し、他者の意見を精確に捉えられる力を育てる。	・目標達成に資する適切な教材を設定することができたか。 ・授業に関わる情報交換をしつつ、教員同士が互いの授業を参観するなどして、授業力向上を図れたか。	①		
		②生徒と教員、また生徒同士が活発にコミュニケーションをとれる時間を設け、生徒自身が主体的に問題に取り組み、その解決策を考えるとともに、我がごととして捉える姿勢を作る。	・考査に論述問題を入れることで、入試を見据えた論述力養成の効果が表れたか。 ・漢字や古文単語などの小テストを通じて、語彙力の定着を図ることができたか。	②		
		③探究的活動を取り入れた授業展開について、引き続き研究する。	・「助動詞かるた競技」「短歌大会」など、生徒が能動的に授業に参加する場面を増やすことができたか。 ・小論文、レポート作成等を定期的に取り入れ、各自の思考を書いてまとめる力の向上を図れたか。	③		
地歴公民	(1) (3) (5) (6)	①現代社会、政治経済など公民の授業で、主権者教育を通して広く地域や社会に目を向けさせる。	・学年と連携して、外部団体(選管)の協力や助力を得て、主権者教育を行うことができたか。	①		
		②マルチカルチャリズムの観点から、世界と日本の歴史・地理を学ぶ中で、他文化を理解し尊重していく姿勢を身につけさせる。	・提示された資料に対する考察や定期考査などをとおして知識の定着と理解が図れたか。	②		
		③指導要領の改訂をにらみ、生徒が主体的に学ぶ探究的活動を取り入れた授業展開について研究する。	・生徒が主体的・対話的に行う探究的活動を、授業に取り入れることができたか。	③		
		④コロナウイルス感染拡大にともなう休業において生徒の不利益にならぬようICT機器を使いフォローする。	・ICT機器を用い、課題や授業動画の配信を行い、生徒の自学自習を支援することができたか。	④		

教科	中期目標	評価項目(重点目標)	評価の観点	項目 自己 評価	成果と課題(最終評価)	向上策・改善策
数学	(1) (2) (5)	①計算力を中心に、教科の基礎学力の定着と、応用力の充実を目指す。IT機器の利用を促進し視覚に訴えることで、生徒の理解力を深める。 ②論理的な思考力・判断力とともに、「言語」による表現・伝達ができる能力を育成する。	・論理的な思考の手順を、解説や板書、電子黒板等での確に説明することができたか。 ・授業、提出課題、考査等で生徒自らの論理的思考を明確に発言、記述することができたか。	① ②		
理科	(1) (2) (6)	①自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身につける。 ②観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 ③自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。 ④ICT機器を活用し、休業中の生徒への学習支援を行い、科学への理解度を深める。	・自然の事物・現象についての理解を深められたか。科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身につけられたか。 ・観察、実験などを行い、科学的に探究する力が身についたか。 ・自然の事物・現象に主体的に関わることができたか。科学的に探究しようとする態度が身についたか。 ・ICTの活用を通して自然の事物や現象について理解が深められたか。	① ② ③ ④		
外国語	(1) (2) (5)	①英語の基礎となる単語、熟語、構文、文法などを定着させる。 ②グループ学習やプレゼンテーション活動を通して、生徒自身の意見を英語で発信する能力を育成する。 ③生徒の能動的な活動を通じて、4技能とともに思考力やコミュニケーション能力を育成する。	①生徒の実態や目標に応じて適切な教材や学習方法を示し、学力定着の工夫ができたか。 ②生徒に意見発信をさせる機会や課題を与え、適切な助言や指導ができたか。 ③知識定着に加え、言語活動を多く取り入れ、英語の運用能力を総合的に育成することができたか。	① ② ③		
芸術	(2) (3) (6)	①芸術の授業を通して、生徒が自ら目標を設定し、意欲的に自己表現する姿勢を育成する。 ②国内外の様々な芸術文化に関心をもち、それぞれの芸術文化を尊重する姿勢を育成する。 ③新型コロナウイルス感染症対策として、対面授業ができない場合や単元の入れ替えが必要な場合、適切な教材選びと共に、ICTを活用した授業展開を推進する。	・生徒が様々な芸術文化に興味関心を持ち、意欲的に取り組める教材設定ができたか。 ・生徒個々の能力を見極め、意欲的に課題に取り組むための生徒支援ができたか。 ・ICTを活用した授業展開の研究が充分できたか。	① ② ③		
保健体育	(2) (3)	①運動に関する知識を深め、技能・体力の向上を図り、運動の楽しさや喜びを味わい、仲間と協力する姿勢を身につける。また、生涯スポーツにつながる資質や能力を育成する。 ②健康の保持増進のための知識や実践力を身につけ、実生活において活用できる考えを育て、明るく豊かな活力のある生活を営む態度を育てる。	・適切な服装、時間やルール等を遵守させられたか。集団行動の意義や、自分及び仲間の安全、仲間との協力や運動の楽しさを実感させられたか。 ・安全管理は適切であったか。 ・運動量は確保できたか。 ・身近な話題に触れることで、興味関心を引き出し、日常生活及び今後の実践につながるような内容を提示できたか。	① ②		
家庭	(2) (5) (6)	①急速に変化する社会の状況に目を向け、多様化する家族・家庭や生活様式について理解し、自らの生き方をデザインする姿勢を育成する。 ②成年年齢の18歳引き下げにより、社会がより身近なものとなることから、適切な意思決定や消費行動について自ら考え行動できる態度を養う。 ③新型コロナウイルス感染症対策により、生活様式が変化する中、「持続可能な社会」の実現に向けて、家庭生活や地域社会へ関心をもち、自ら課題を発見し、解決していくための知識や実践力を身につける。	・社会の出来事に興味を持たせ、現状を理解し、自分の生活と関連づけて考えさせることができたか。 ・消費をめぐる様々なトラブルに直面した場合、社会的な手段も利用しながら、それを解決する方法を身につけさせるための適切な指導、助言ができたか。 ・学習で得た知識・技術を活用し、生活を巡る様々な問題を意識させ、課題解決に向けた学習活動を充実させることができたか。 ・ICT機器を活用した教材作成を通して、学習環境を整備することができたか。	① ② ③		
情報	(5) (6)	①情報モラルについての基礎基本を定着させる。 ②ワード、エクセル、パワーポイントの基礎的操作を習得させる。 ③配信動画授業、ZoomやLINEなどを導入したSHR、LHR、授業の実践とその研究を行う。	・基礎的な知識理解ができたか。 ・基礎的な技能の習得ができたか。 ・学校より配信された動画、Web授業等を家庭で受信でき、有効活用できたか。	① ② ③		